

# 学道一如

発行  
小樽双葉高校  
新聞部  
2026年7月1日  
第21号

## 野球部 小樽未来創造に圧勝

### 3回戦は函館で札幌平岡と

6月28日、第108回選手権大会の2回戦がエムデジ桜ヶ丘球場で行われ、本校は小樽未来創造を22-0（5回コールド）で破り、3回戦を7月9日に札幌平岡高校とテオーオーシヤンスタジアム函館で対戦することになった。試合を振り返ってもらい、抱負を聞いた。



試合前に円陣を組み礼拝する

打順	氏名	守備
1	横溝太冴 (3-4)	ライト
2	清野寛太 (3-3)	レフト
3	菊地琉斗 (3-3)	ショート
4	大日方瑛滋 (2-2)	サード
5	鶴来莉玖 (3-2)	キャッチャー
6	中山尚大 (3-2)	DH
7	館飛雄真 (3-3)	センター
8	深澤大智 (3-3)	ファースト
9	光股歩叶 (3-4)	セカンド

	1	2	3	4	5	計
小樽双葉	2	3	0	14	3	22
小樽未来創造	0	0	0	0	0	0

投手-捕手 近藤・平野 (5回)-鶴来  
3塁打 田中 (5回)  
2塁打 深澤 (2回)、館 (3回) 菊地 (4回)、鶴来 (4回) 2、光股 (4回)

平野義人くん (3-3) が0点に抑え、攻撃に流れができた。また、先頭バッターがよく出塁できたので、流れと勢いがつき、理

副主将の深澤くんは「3回戦、函館につながる試合をまず一勝することに専心した。ピッチャーの近藤琉唯斗くん (3-4)、

想的な攻撃ができた。チャンスで打ち、残塁がなかった。一人一人が役割をこなすことができた。相手の3年生にとっては負けたら最後の大会になるので、最後まで全力で敬意をもって戦った。守備はよく声が出て、ベンチも含め全員で野球ができた」と振り返った。

第二ステージは函館での戦いとなる。「これまでと違う環境になるが、普段通り自分たちができることを精一杯やっていきたい」と語る。主将の長崎くんも「エスコンフィールド北海道で全校応援してもらえるよう頑張りたい」と語っている。

次は7月9日の第一試合、札幌平岡高校と対戦する。

## 尾山さん・米澤さん・山田さん全道へ 小樽地区バドミントン選手権大会

6月27・28日に行われた右記大会で女子シングルスで尾山葵衣さんが優勝、ダブルスで尾山葵衣・米澤芽唯組が優勝し、全道出場権を得た。



尾山葵衣さん・米澤芽唯さん

女子ダブルス1位  
米澤 (2-2)「準決で俱知安に狙われ1ゲーム取られたが話し合い勝つことができた。成長できたと思う。」

女子シングルス1位  
尾山 (2-3)「山田さんと組んでいたプライドを持ち戦いました。」



男子シングルス2部2位  
田中愛翔 (2-3)



女子シングルス一般に推薦  
山田瑠菜 (3-3)

田中「自分としてはまだ通過点。1部に移り全道大会に出たい。今回、集中力を切らず粘り強く戦え、ダブルスも息が合った。」



男子ダブルス2部 3位  
橋本佑暁音・山本琥珀 (2-2) (2-1)



男子ダブルス2部 2位  
田中愛翔・東海林春翔 (2-3) (1-4)

東海林「田中先輩と初めてダブルスを組み、いきなり2位でうれいですが、ミスが出たら話し合い、こころ本取ろうと声かけできました。」



ショートを守備する  
菊地琉斗くん



高橋蓮斗くんの守備



打席に入りルーティンを行う  
光股歩叶くん

打席に立つ  
横溝太冴くん



近藤くんのピッチング

プロも注目最速148キロ右腕  
近藤琉唯斗くん (3-4)  
4回1安打無失点と好投した。最後は直球で7つ目の三振を奪いマウンドを降りた。プロ6球団のスカウトが熱い視線を送っていたという。春季大会から腕の位置を上手投げに変更し、回転数が増え、体の開きも抑えられるようになった。第二ステージでの活躍に期待したい。